

「石井のおとうさんありがとう」の
映画を上映する実行委員会
代表 森山百合子

「石井のおとうさんありがとう」上映について

主 旨

私はこの映画を見て石井十次の生涯のドラマに触れ、深く感動を覚えました。
この映画は、明治時代に今日の児童福祉の考え方や教育の基盤を築かれ、実践され大きな功績を残した「石井十次」の一生を映画化したものです。
この映画は山田火砂子さんが監督をされ、ご自身も重度の知的障害をもったお子様がおられます。今、この映画は昨年夏から、全国で上映されています。この機会に本市の多くの方々にぜひ鑑賞して頂きたいと思っております。福祉とは、教育とは人間の生き方、心の孤児とは、家庭とは親子とは、等さまざまなことを考えさせられる映画です。この感動を川西市のみなさんにも伝えたいとの思いからこのたび知人の応援をいただきまして、明年の平成 18 年 2 月 25 日（土）に上映出来る運びとなりました。私自身、組織力もなにもありませんが共感して下さる皆様の理解と協力を得ながら実行委員会を作りました。会場は川西市文化会館 大ホールにて午前 10 時・2 時・6 時の一日三回上映いたします。
どうか福祉に携わる方はもちろん、子供さんやお孫さんをお持ちの方など一人でも多くの人たちのご来場をこころよりお願い申し上げます。

〔内容〕 明治の中期 石井十次は、児童福祉、教育事業への道を歩み始めます。

明治 24 年の被災児の救済、明治 39 年の冷害による被災児教育 1200 名「岡山孤児院」を設立し幼稚園、学校もつくり一貫した養育・教育を行いました。宮崎茶臼原で自然教育をやろうと決意し、岡山から宮崎への大移動が始まった。大正 13 年 48 歳の若さで志半ばで倒れました。孤児の父として、また当時福祉の言葉もない時代に、ロマンあふれる理想的農村共同体の実現を目指していました。この映画の石井は、心の広い、自分を犠牲にしてまで他人に尽くす、正直な生き方を見せています。児童福祉の父とよばれ波乱万丈の短き人生に多くの教訓があります。

.....
連絡先

代表： 森山百合子
電話・FAX：072-753-4036
住所： 兵庫県川西市萩原台2-68

「石井のおとうさんありがとう」上映実行委員会 名簿

代表	森山 百合子	兵庫県川西市萩原台西 2-6-8
副代表	鈴木 健太	大阪府池田市井口堂 3-8-2
事務局	久野 龍巳	兵庫県川西市小戸 1-5-2 KSKビル 5F
会計	荒牧 章二	兵庫県川西市大和東 2-2-16
委員	荒牧 康子	兵庫県川西市大和東 2-2-16
委員	原田 基子	兵庫県川西市緑台 7-1-59
委員	平井 由孝	宝塚市雲雀丘 1-2-11
委員	黒山 敦也	川西市久代 1-21-21
委員	横山 道雄	川西市久代 2-4-32
委員	横山 峯子	川西市久代 2-4-32
委員	東 孝司	川西市東久代 2-20-15

映画「石井のおとうさんありがとう」

企画意図

夢見るさん砂子さん「石井十次」を演ずる

教育の荒廃が騒がれている現在、テレビは毎日のように子育てを放棄した両親、愛児を死に至らしめる親たちのニュースを放映し、乳児施設はどこも満員といった話も耳にします。

この度、私が製作する「石井十次の生涯」という映画は、明治時代に親のない子や貧困に喘ぐ子どもを三千人も助け、岡山県に日本初の孤児院を作った福祉の元祖・石井十次先生の波乱に富んだ生涯の映画化です。

岡山に作られた孤児院には、教育のために学校も設けられていました。この時期の日本に、子どもたちへの教育を徹底させるゆとりなど、有るはずがありません。当然、私費によるものでした。その後、宮崎県高鍋町に移転してから石井十次先生は、子どもたちが自立できるようにと、施設内に小・中学校まで作って教育の徹底を図ったのでした。しかも、その中にいた少数の病弱児や知的障害児にも自立への教育を施したのでした。

このような偉業を成した石井十次先生の功績を知る者は、それなりに福祉を学んだ限られた人々か、先生とつながりの深い方々だけで、あまり一般に浸透していかないのが実情です。ですから私は一人でも多くの方にこの事実を知って頂きたいと思えます。そして豊かな未来を持つ子どもたちへは、なおさらの気持ちで一杯なのです。

あの「大原美術館」の大原孫三郎、児島虎次郎も石井十次先生を尊敬し支援し続けました。いわば、日本の福祉元年に力を注がれた方々です。改めてこの方々の軌跡を見詰め直して下さい。石井先生は「親の無い孤児はかわいそう、もつとかわいそうなのは、精神的孤児だ」と、常に言っていたそうです。その精神的孤児が溢れている今日、孤独で寂しいのは自分だけとは思わず、この映画に「共感」を支援頂ければこの上ない幸せです。

多くの孤児育てた石井十次

生涯描いた映画に共感

明治から大正にかけて、三千人もの孤児を育てた石井十次の生涯を描いた映画「石井のおとうさんありがとう」(山田火砂子監督)が、ロケで評判を呼んでいる。昨夏から各地の学校やホールなど延べ40か所以上で上映された。児童虐待が問題となる中、子どもと向き合うひたむきな共感が集まっている。

石井は一八六五年に今の宮崎県で生まれた。岡山県の医学校で学んだが、孤児救済に一生をささげようと志す。岡山と宮崎で孤児院を開き、四十八歳で亡くなった。孤児院は私費と寄付でまかなわれ、最も多いときは一、二百人がいたという。山田監督は「はだしのゲン」など社会的なテーマの映画を多

く手がけている。社会事業家の先駆けである石井が、一般にはあまり知られていない現状を知り、映画化に乗り出した。主演は松平健で、永作博美、竹下景子、ケーシー高橋らが脇を固める。山田監督は「子育てをもう一度考え直すきっかけにしてほしい」と話している。

昨年七月から宮崎、岡山や首都圏で上映され、今年も一月から東京都などで続く。二月二十六日には広島市の広島県民文化センターでの上映が決まっている(午前十時半と午後二時)。前売り券は大人1,200円(当日1,000円)、子ども800円(同日200円)。フィルムの有料貸し出しも行っている。

ひたむきな姿 マツケン好演



各地で相次ぎ

石井十次のひたむきな姿

(紙幣新聞) 平成二十七年一月九日号より